

one hour

2009
9

DAIDO

未来を語る人が好きです

1時間の暮らし探検

特集 大人の学舎「漢方医学」

紀行エッセイ 第114回 /

私のなかの新しい扉を開いてくれた、
祈りの旋律にあふれる街 / 幸田浩子 (オペラ歌手)

編集長一押し 今月の一冊 /

『岩本流マラソントレーニング
あなたも3時間30分が切れる』

春夏秋冬クラシックミュージック・レビュー /
旅と音楽

おさかな博士の旬食のススメ /
サンマと栗の甘露煮

オランウータン
霊長目ショウジョウ科。
マレー語で「森の人」を意味する。
ボルネオ島やスマトラ島などに生息し、
熱帯雨林の樹上でベッドを作り、果実や
木の葉、鳥の卵などを食べ、地上にはほとん
ど下りることがない。

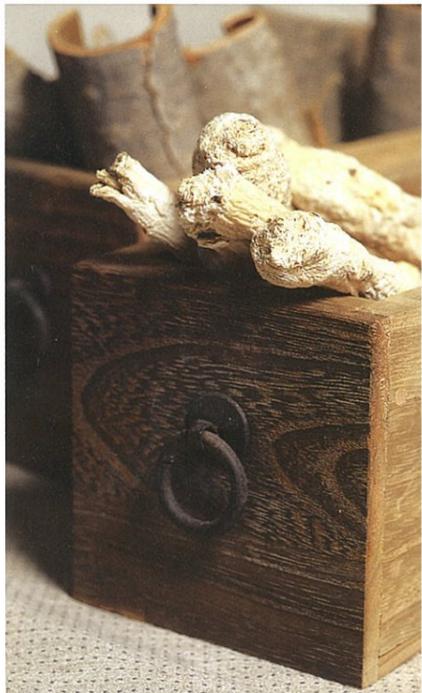
Photo: AFLO

企業のために、
経営者とともに。

大同生命

漢方医学

患者のからだ全体を捉え、病を治していく漢方医学。細分化・専門化の進む最新医療の現場で、今、漢方の考え方が改めて注目を集めている。その特徴を専門家につかかった。



漢方薬には薬効成分をもつ自然の動植物(生薬)が用いられ、一般的に西洋の薬のように化学的な精製や合成などの加工は行われない。写真はシャジン(手前)とコウボク(奥)。

国内で育まれた日本にある「漢方」

「漢方と聞くと、中国が本場だと思われるかもしれませんが、それはちよつと違います。日本の漢方は日本独自のものなんですよ。」

こう切り出したのは慶應義塾大学医学部で漢方医学センター長を務める渡辺賢治氏だ。

漢方発祥の地はおよそ2000年前の中国、当時の漢だといわれている。そこからほかの技術や学問と同じように、6世紀頃日本へと伝来してきたというのが通説だ。

「ルーツは中国ですが、日本に入ってからすでに1500年近くたっています。その間に、それぞれの国でそれぞれの発展を遂げており、今の日本と中国では、理論や考え方がかなり異なるのです」と渡辺氏は説明する。漢方が日本独自のものと著しく

「証」を見立てる？ 漢方医学の基本的な考え方

状況が大きく変わったのは1976年、漢方薬が大々的に保険制度の適用

もそうとはいえません。たとえば、風邪をひいた場合、平素が「実」の人は汗をかかずに自分の力で体内に熱をつくり、ウイルスを排除できることが多い。しかし、徹夜続きで体力が落ちていたりするときには、ウイルスを排除できず、虚の反応を示すことがあるのだ。

漢方医学では証で治療方針が決まるため、同じ人が風邪をひいても、そのときの状況によって処方される漢方薬は異なる。

を受けられるようになってからだ。以降、徐々に漢方医学の考え方が医師の間で理解されるようになり、今では西洋の薬と漢方薬を状況に応じて処方するケースも増えてきているという。

「西洋医学では病気の原因をつきとめてから治療を行います。一方、漢方医学は原因というよりも、今、患者がどのような状態にあるのか、という点を重視します。これを「証」といい、証の決定により処方を選択されます。」証にはいくつもあるのだが、「実証」と「虚証」という代表的なもののみをみよ。

実証とは、「邪気(病原菌など)の過剰」によって体調を崩しているが、抵抗力は落ちていない状態を指す。一方、虚証とは邪気によって抵抗力が落ち、虚弱になっている状態を指す。なお、実証でも虚証でもない中間の状態を「虚实中間証」という。

証は、平素の体力や体格からも見立てられる(下表参照)。体型が筋肉質で、消化吸収がよい人は「実」と見立てられ、逆に痩せ型で小食の人は「虚」と見立てられることが多い。

「疾病への反応と、平素の体力や体格という2面から虚实の証を決定します。平素が「実」の人は疾病への反応も「実」の場合が多いですが、必ずし

実証と虚証の比較

実証	虚証
筋肉質	痩せ、水太り
積極的	消極的
良好	不良
光沢・つや	さめ肌・乾燥
発達良好	発達不良
大食	小食
季節に順応	夏ばて・冬は疲れる
力強い	弱々しい
寝汗なし	寝汗あり・食後眠い

からだ全体を診ることで
原因不明の不調に対応



「欧米からの研究者や留学生に漢方の考え方を話すと、感心する人が少なくありません」と渡辺氏は話す。

西洋医学は科学の進歩とともに、ミクロの世界での分析が進められてきた。病気の元を正確につきとめ、それをピンポイントでねらい撃ちすることで、高い治療効果を発揮してきたのだ。

「結果的に専門化が進み、病院の診察は臓器別で行われるようになりました。しかし、検査をしても原因のみつからない、からだの不調」といったものには、対応しにくいという課題があります。そこで漢方医学の、患者のからだ全体を診る、という考え方が注目を集めるようになってきたのです。

たとえば、手足の先などが冷える「冷え症」。西洋医学では、貧血や自律神経失調症といった原因が特定できれば、治療を行うこともあるが、一般的には体質的な問題と捉え、治療が行われることはあまりない。体温自体が低いわけではないし、ほかに特別な異常がみられるわけでもないのに、病気として捉えられにくいのだ。

一方、漢方医学は冷え症を病気として

て捉える。これは冷え症を放置しておく、月経痛や胃腸の機能低下など、ほかのさまざまな病気を引き起こすことが多いと認識しているからだ。処方される漢方薬はその人の証によって異なるが、いずれも冷えの原因を改善し、全身の調子を整えることを目指している。

また、漢方医学では薬の処方と同時に、食事を中心とした生活指導も細かく行うことが多い。「病気になったら薬を飲めばいい」というより、自分のからだのことを知り、そもそも病気にならないような生活習慣を身につけることが、漢方では大事だと考えられているからです。

採長補短、西洋医学と
漢方医学をつまく使う



渡辺氏の勤務する慶應大学病院では、漢方を取り入れた医療が日常的に行われており、外科の現場でも用いられている。

たとえば、腹部の開腹手術後に漢方を処方することがあるという。「術後、患者さんに腸閉塞の症状が出たときには、大建中湯という腸の働きをよくする薬を処方し状態を改善しています。西洋と漢方は別モノ



生薬を保存していた年代ものの薬箱。

漢方薬には副作用がないの？

漢方はからだにやさしい、と考えられがちだが、渡辺氏は「漢方薬は薬用植物主体のれっきとした薬であり、副作用も残念ながらあります。安易な服用は避け、漢方に詳しい医師に必ず相談してください」と注意を呼びかける。また、同じ薬でも人によって効果は異なるので、自分の薬を人に勧めたり、人の薬を飲んだりすることは絶対に避けよう。



漢方医学センターには、多数の生薬や漢方医学に関する文献が保管されている。漢方薬の作用について、そのメカニズムの研究なども行われている。

漢方に向き・
不向きな病気

漢方による治療が向いている病気には、どのようなものがあるのだろうか。渡辺氏は、「基本的にどの病気にも適応はありますが、胃腸障害や肝炎、アレルギー疾患、冷え症、自律神経障害、前立腺肥大、高血圧、糖尿病などで悩んでいる患者さんを診ることが多いです。また、意外かもしれませんが風邪は漢方の得意分野で、最近は処方する医師も増えてきているようです。逆に、抗生物質が必要な感染症や、がんや腫瘍などの手術が必要な病気、急性腎不全や急性心筋梗塞など救急処置の必要が高い病気には向いていません」と話す。

で相容れないもの、と思われる方も多いかもしれませんが、役割分担は十分可能なです」と渡辺氏は言う。また、同大学では漢方の証を体系化すると同時に、西洋と漢方の考え方を論理的に整理し、組み合わせる研究が進められている。

西洋医学で、たとえば「更年期障害」と診断された患者が、どのような証にあるのかを漢方の視点で診ること、よりきめ細かな医療を実現できるようなからだ。

「病名は同じでも、患者さんの体質や状態は一人ひとり異なります。そ

こを見きわめることは、患者中心の総合医療を充実させていくうえで非常に大切です。もともと医療の目的は西洋も漢方も同じで、患者の病を治すことにあります。採長補短、という熟語があるように、西洋と漢方の両医学が互いの長所を採り、短所を補うことで新たな医学の可能性が生まれるでしょう。

2001年からは文部科学省の指示のもと、全国の医学部で漢方教育がカリキュラムに組み込まれるようになった。今後、ますます漢方は身近な存在になりそう。



「葛根湯(かっこんとう)」を構成する生薬。手前右からシャクヤク、カンゾウ、ケイヒ。血は上から時計回りにカクコン、マオウ、タイソウ、ショウキョウ。葛根湯は風邪のときに服用することが多いが、「証」によっては効果が変わるので、専門家に相談すること。

Vol.30 漢方医学

大人の
Otonano Manabiya
学舎



監修:渡辺賢治(わたなべけんじ)
1959年生まれ。慶應義塾大学医学部漢方医学センターセンター長・准教授。慶應義塾大学医学部卒業。日本東洋医学会理事・指導医・専門医。日本内科学会総合内科専門医、アメリカ内科学会上級会員。